

An illustration of two anime characters in a traditional Japanese setting. The character on the left has black hair and is wearing a black kimono with a red undergarment. The character on the right has red hair and is wearing a black kimono with a white undergarment. They are standing on a balcony with a red railing, looking at each other. The background features a traditional Japanese building with a dark roof and a window showing a sunset. There are white flowers in the foreground and a butterfly on the balcony railing.

# 花盗人と 玉座の王宮

R-15

2014 SUMMER 神威 × 高杉晋助  
GINTAMA FANBOOK NO.008  
Hofukukoushin-icica and naissan presents

# 花盗人と 玉座の王宮 R-15

2014-SUMMER 神威×高杉晋助  
SHINKAI TAKESHIRO NO OUE  
Hofschloesstein-tour and messen presents.

※このお話は神威が十歳からスタートする  
神威×高杉のR-15中華パラレルです。  
鳳仙×高杉、一部残酷な描写など御座いますので  
ご注意ください。






玉座の王宮





FIN



あるだけ  
持って行こう

こんなに  
咲いた



ねえ

夜兎は夜を渡る種族だ  
正確には夜の中でしか  
生きられない種族……

限りなく最強に近い力を  
手にしながらも陽の光を  
浴びれば簡単に死に至る  
致命的な弱点を持った種である

夜から夜を、戦場から戦場を  
渡る夜兎が王朝を持った

貴重な夜に咲く  
万能薬となる花を  
育てるささやかな星を  
夜兎は力で奪ったのだ



濃厚な種だった王族を殺し力で民を支配し王宮にはその貴重な花を育てられる者だけを残した。貴重な花の価値を更に高めようと花は厳重に管理され花盗人は例外無く殺された

ああ！花を……！  
どうか一片でも……！

夜と薄明りの白夜が続く陽がほとんど射さぬ夜兎の楽園  
永遠に夜を渡る夜兎が手にした  
最初で最後の王朝である

妻と息子が……  
お願いします！  
おねがいします！

花盗人には  
死を……

奇跡の花と云われるそれは  
この星でしか自生せず  
永遠の夜が支配する星で  
不思議と光る花だった

光焯花という、花だ



ひまわり

其の花に触れば傷は  
立ちどころに癒え  
蜜を吸えば病が癒える  
万能の花



百合の花に似た光る花は  
生きている者であれば  
どんなものでも癒した



誰もが欲しが  
る秘薬  
その奇跡が  
この花を  
育てる  
ことは  
難しく  
野生の  
ものに  
人の手  
を入  
れど  
うに  
か  
少  
し  
づ  
つ  
増  
や  
し  
た  
そ  
う  
だ



癒すつたって  
どうせ金のある奴だけ  
弱い奴は花に触れる  
ことすら出来ない

どっちにしろ  
俺は夜兎で  
傷や病なんて  
カンケーないし



こんなの  
に縋る  
なんて  
馬鹿だ  
な  
脆弱な  
種は……





花びら……？

上から……

その男は最初から高みに居た



初めて見た時、この男が  
俺の全てだと思った

少年将軍、神威  
夜王鳳仙の弟子として入城  
当時十歳のことだった――



出遭いは偶然だった  
回廊をうろろろしていたら  
迷子になっていつの間にか  
鳳仙の離宮に入っていたから





なんでえ……  
只の餓鬼じゃねえか

それ食ったら  
出て行けよ

うん、また  
来てもいい？

……次が  
ありやあな

じゃあ俺  
かえる

あんた？  
名前は？

餓鬼じゃないよ  
おれ神威



高杉

その出会いこそ  
互いの運命を変える  
ことになるとは

その時は知らなかった  
何も知らない無垢な神威と

じゃあ  
またね高杉

虜囚の男  
それが出遭いだった

# 花盗人と 玉座の王宮



この国は篡奪王朝だ  
強者が王位を奪い篡奪した

鳳仙が前王を殺し篡奪した

生まれる前のことだから  
それを俺が視たわけでは  
ないがそうなのだろう

鳳仙という男が王座に就いて  
二十年余り誰も鳳仙から  
王座を奪えない

覚悟！  
存王才オオ



汚れたな  
神威  
片付けておけ

アンタは  
何処へ？

知れたこと  
奴のところよ

奴、とは  
あのひとのことだ

「高杉」と呼ばれる男だ  
正確な名は知らない  
鳳仙が飼っている男の名だ  
高杉は辺境の星で  
鳳仙が戦場の死体の山から  
拾い上げたという

……

死にかけの高杉の  
何かが鳳仙を捉え  
虜にしたのだ

ふん、  
侍など  
口ほどにも無い

しかし蛮族とはいえ  
我が闘技場で  
戦わせるのも一興…

殺す…!!

気が変わった

貴様を我が物と  
してくれよう  
辺境の蛮族とて  
遣りようがあるわ

そして高杉は鳳仙の  
虜囚となった  
まるで嚴重に管理される  
花のように花盗人には  
触れられぬように  
彼は離宮の奥深くに  
捕らわれ隠された



そりやあそこは  
鳳仙の旦那の寝所  
だからなあ

寝所に入入り  
するのがなんで  
駄目なのさ

副将：阿伏兔 まだ (※24歳)



離宮ってなんて  
近付いちや駄目  
なんだろ……



じゃあなんで  
高杉があんな  
とこに居るのさ

高杉女じゃないし  
そりやキレー  
だけどさ



あ……  
子供……まだ  
十歳だっけか……

情操教育……

大人にや  
色々あんだよ



離宮にいる  
チャラチャラした  
女とは違うし……  
でも離宮に  
入れられたら  
出られないんだろ？

……



……それも大人の  
事情ってやつだ……  
あの男は夜王の  
慰み者だからな……

ナグサミモノって？

そりやーまあ……  
ほれ、俺達や仕事だ  
將軍閣下

離宮にはいくつもの部屋がある。  
鳳仙はこの離宮に何千何百という  
女を囲っていた。

侵略した土地から奪い  
或いは献上されて  
宇宙中から集めた  
美姫達を其処に集めた。

その離宮の一番奥深くの  
静かな場所に高杉の部屋がある。

この離宮でたった一人  
男の身でありながら高杉は其処に居た。  
豪華な檻に囲まれて  
この男は夜王に閉じ込められている。



…神威か

俺はその意味を知らない  
何も知らぬ子供だった。

師父も素質が  
あるって云ってた

昨日まで西の戦場でね  
俺いっぱい殺したんだ

それで  
面白かったのは…

うん！



……



その美しい男は  
夜王の慰み者だった

菓子をやっただけだ  
しようもねえ嫉妬  
してんじゃねえよ

いつから僕に指図  
できるようになった？

侍とかいう辺境の星の  
強者だったらしいが  
こうして捕らわれて何も出来ない。

何も出来ない  
俺と同じだ

なんで…

廊下の奥から  
あのひとの部屋から  
響く悲鳴が、嗚咽が

何して……

子供心にもそれが酷く恐ろしかった



それでもその密やかな  
逢瀬は続いたのだ



これ頂戴



待って  
云ってるだろ

殺すよ



將軍

しかしこれ以上は  
作戦に影響が...

ちょっと待って



進軍!

これ渡したら  
喜んでくれるかな







今にして思うと  
それが初恋だった

ぽ

弾かれたように笑う  
高杉のその顔が  
俺の胸深くに刻まれて

さっさと  
上がって来い  
見つかるなよ



傑作だなア  
餓鬼



……いや  
かまわねえよ  
貰う

俺が渡したって  
バレたら怒られる？

とても純粹だった  
俺は何も知らなかった  
慰み者がどういう意味かも  
わかっていない餓鬼だった

また師父に  
酷いことされる？

幼い、恋だった  
とても幼い淡い恋

大人になった今ならわかる。  
高杉は多分、夜兎の本能的な  
支配欲を刺激した

鳳仙が高杉を寵愛したのは  
高杉の心を潰して徹底的に  
従わせ奉仕させたいという欲求だ

決して従わぬ眼を持つ高貴な男を  
支配したいという下卑た本能  
己の目が己の王だと識る男を  
屈服させたい傲慢……



来たか……

漠然とそれを理解したのは  
十二になった頃だ  
夜に、部屋に呼び出された



どうだ？  
良い眺めだろう

左目が無いのが  
残念だがこの男は  
良い眼をする  
中もなかなかのものだ





ならば味わせてやれ  
この穢れた身体を

僕の眼を盗んで逢う  
くらいには親しいの  
だろう？



やめろ

見るな……っ

頭の芯が冷える  
この状況はなんだ？



ああ……  
そういつごとか……



何故高杉がこの男に  
組み敷かれている……



逆らえば此処で  
こいつ  
師父は俺を殺す……

そして高杉はもっと  
酷い目に遭う……この場を  
支配しているのは鳳仙だ



十三の時には奴の前で  
行為をさせられた  
ぞくりとする反面  
その綺麗な人が  
蹂躙されるのが耐え難い

今や高杉は離宮の花と  
云われる寵姫だ……  
弄られ自由を奪われ  
何が寵姫か……！！

欲しいと思ったものは  
他人のものだ  
そしてそのひとを  
己の手で穢している

間違っても中には  
出さなよ、神威  
これは貴様の  
ものでは無い



自由だと思ってた  
でも本当は誰かに  
支配されていた

ごめん

俺は何処にでも行けたけど  
高杉を自由にすることは出来ない

ごめん、高杉…

あの夜の後から高杉の部屋への  
出入りを許されたけれど  
それはあいつに与えられた自由だ

気にすんなよ  
俺あ忘れた…

俺や高杉の自由じゃない

だって俺は  
黒山  
あんたにあいつが  
するようなことを  
したいと思った…

ごめん、高杉

そんなこと  
思っっちゃったんだ…

耐え難い屈辱だった

あいつは火が点けば  
昼も夜も問わず、責め立てる  
虜囚の身となった時から  
あの男の気紛れに弄られる玩具だ

あの戦場で奴に  
捕まったことが  
失敗だった……

俺の戦いは  
終わってねえ  
地球へ、江戸へ帰る……

いつか帰る為に  
死ぬこともできず  
帰る為だけに  
この恥辱に耐えた

俺は必ず此処を  
出て復讐を果たす  
全て壊す……

それを見透かされたように  
耐えられぬほどの屈辱を  
与える為だけに……

ごめん

奴はこの餓鬼を  
俺に宛がった……

神威……  
夜兎の餓鬼……  
天人だ……

どうだっていい筈だろ  
こんな餓鬼どうだって……



どういでもないなんて嘘だ

見抜かれた…  
俺が此処でこの檻で  
この餓鬼に僅かでも  
救われていると…

てめえの  
所為じゃねえ

こいつが…こいつの前で  
だけ俺は俺でいられる…

キッ





この地獄で  
何も知らぬ  
こいつだけが

俺の光だった

こいつが天人だろうと  
夜更だろうと  
何も知らねえ餓鬼で…



だから耐えられた  
いつか帰る為に  
俺はこの地獄に耐えた

だが耐え難い  
こいつにあんなこと  
させて俺がこいつを  
穢した……

こいつはまだ  
こんな餓鬼だよ

出遭って三年…  
それでも十三だ…

てめえの  
所為じゃねえだろ



その餓鬼に……



惹かれてる…



それが恋だとは  
思うまい

それが愛だとも  
思うまい

けれども

てめえに  
触れられた時  
感じたのは絶望と…

交わった瞬間  
感じたのは

救いようの無い  
歎びだった

俺がこいつを  
巻きこんじまった  
俺がこいつに惹かれ  
なければ…或いは



出遭わなければ  
今頃こいつは無邪気に  
笑ってたんだろうよ…

すまねえなあ  
神威……

どうせ俺あ  
外には出られねえんだ  
外の話は聴かせろよ  
神威……

子供ながらにこの人に  
自由をあげたいと思った

そう思っても、それは不可能で或いは  
このひとを手にする事ができれば  
俺も自由になれるんじゃないかと  
いつの間にか自分を重ねていたのは  
俺の方だったのかもしれない

あんたを  
自由にする

俺、決めた

いつか必ず俺が  
此処じゃないところに  
連れて行く

あんたを  
解放する



約束！

そんな約束をままたごのようにしても  
約束は、約束でしかなく夜毎の悪夢は  
高杉と俺を苛み、支配者はいつだって  
鳳仙だった。高杉のその身体を  
知ってからの四年余りは地獄だった



夜兔は出鱈目が  
過ぎたらあ……

一匙も入れりゃ  
致死量の薬を  
平気で飲み干し  
やがった……



毒は効かねえ……



刺すにしても  
隙がねえ……  
殺すのは骨だ……

奴が武器の携帯を許すのは  
面白がつているからだ  
決して殺せないという  
絶対の自信



お前になど  
傷付けることは出来まい  
と云う王者の自信だ



こんなクソみてえな  
場所から抜け出して  
全部壊してやる……



先生……皆……  
俺は必ず帰る……





弄られて犯されて  
てめえが気に入らなきや  
殺して……

夜兎とはそういう  
本能に生きる種なのだという

いつまで……  
俺も飽きりや  
殺すか……

ああ、でも  
あいつは違ったな……



いつも花を  
持ってきて……

あんな餓鬼が  
將軍だとよ

あいつは今頃  
何をしてるんだろうな

キヤラ

いいのかよ  
「団長」

いい、師団は  
俺個人の部隊だし  
將軍としての責務も  
果たしてるだろ

この戦いは  
全部隊を動員して  
勝った、それでいいだろ

王宮で遊び呆けてる  
莫迦共や後宮に  
入り浸ってるような  
臍抜けの王にはそう  
思わせておいた方がいい

…あの男の為か？  
それで謀反を？  
……本気か？

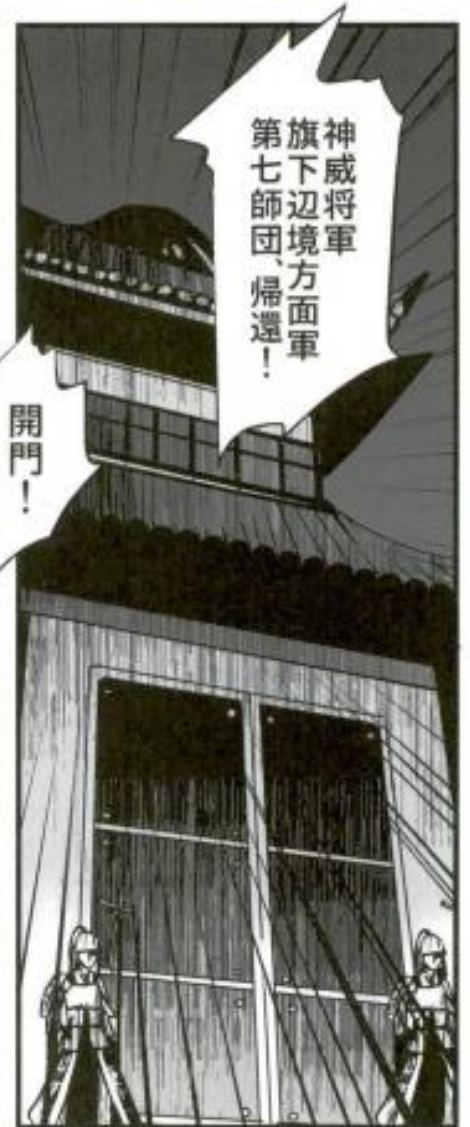
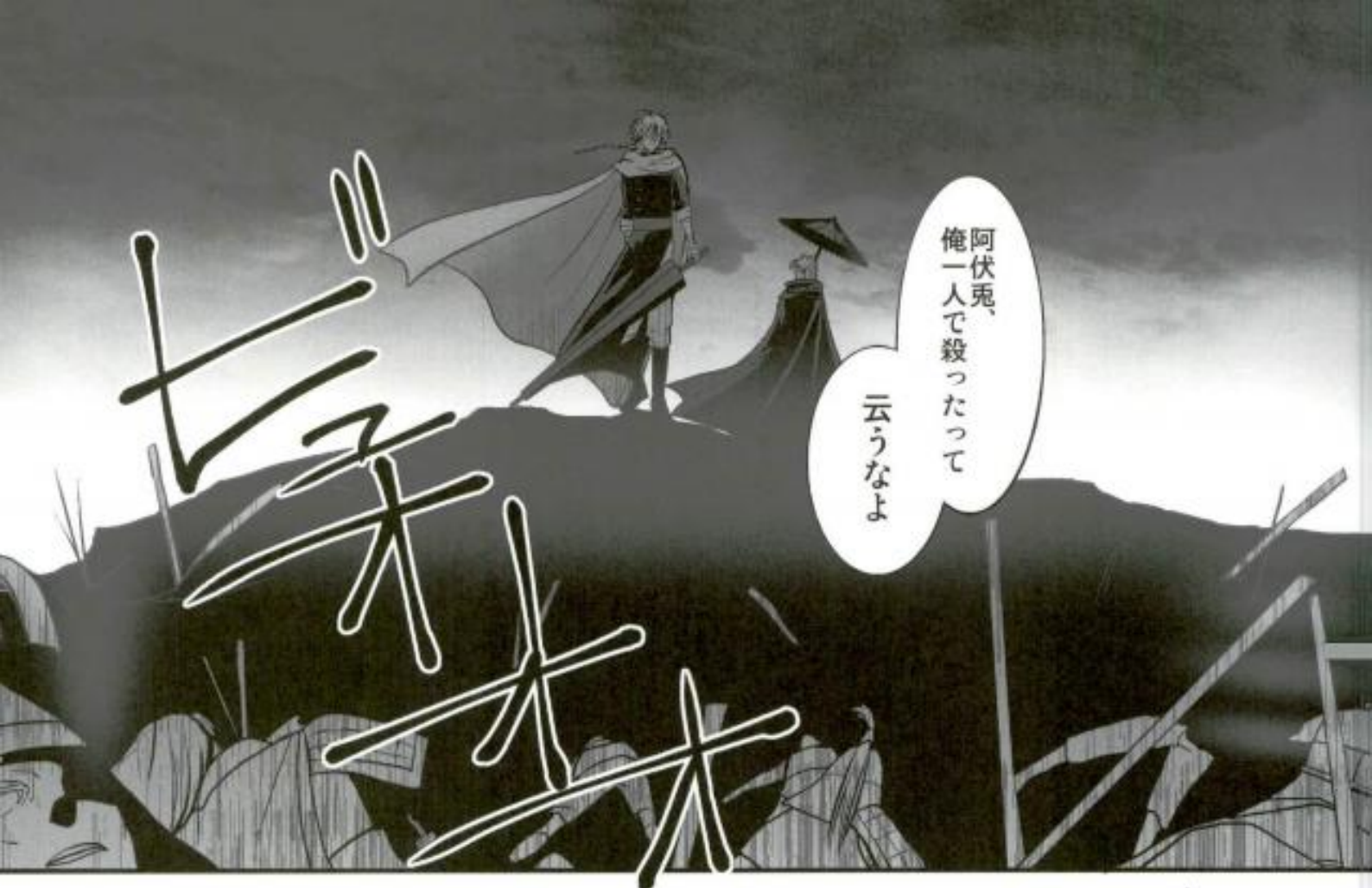
本気で鳳仙に  
勝てると思っ  
たのか……

けどよ、  
これを……

まあ……俺あ地獄まで  
付き合うがよ……  
ためえみてえな規格外を  
上司に持った身だ  
仕方ねえや……

上には  
反乱軍の抵抗が  
激しかったって  
報告する

神威（十七歳）  
辺境方面軍第七師団  
前線基地







棄ておけ  
貴様も混ざるか？

……

獲ってきたよ



苦痛の  
時間が、ある



いつも彼は責められていた

殺気さえこの場で  
見せてはいけない……

強くなる……

酷く切なそうに  
啼くその手を握りたかったが  
己にはそれすら許されない



強くなる…  
俺は強くなって  
この男を殺し

必ずこのひとを  
俺のものにする

自由に、  
する

部屋へ  
戻しておけ

必ず果たす  
そう誓った



討ち獲れ!

止める!



時間だ  
待った時が来たんだ



ハッ

ついに僕を殺る気になつたか！小童！

謀反など企ておつて貴様にそんな頭があつたとはな！

それほどまでにあれが欲しいか！

あの人を苛む全てを

殺す

あれは貴様の手に余る器よ！

殺す

俺は壊す

# そして自由にする





あんたを  
討つのは俺じゃない

俺だよ





俺、決めた

あんたを自由にする  
いつか必ず俺が  
此処じゃないところに  
連れて行く

あんたを  
解放する





約束!

俺と  
お前でやるんだ

いいや、  
神威

ば、かな…





やりやがった……！

その最大の好機で  
やりやがった……！

あの夜王が隙を見せた一瞬……！  
獲物を狩る瞬間……！  
団長が囷になって  
後ろから……！

將軍と寵姫で  
篡奪しやがった……！





これで俺達は  
自由だ……

俺は花盗人  
俺は篡奪者……

王は俺達が殺した



たか……  
フ

七年だ……  
あんたを俺だけのものに  
するのに七年かかった……

やっとだ……  
やっと……





起きたんだ  
高杉

神威？



何処だ…  
此処は…

花…？

ずっと寝てたから  
もう起きないのかと  
心配した



寝てた…？  
何故…



何だ…？



腹に…穴が  
開いた気が…

訳も無く  
焦る違和感

今日は祭なんだ

祭？

悪い王サマが  
死んで皆解放  
されたから

.....



俺の大事なひとを  
解放することは  
できなかったけど...

神威？



奇妙な違和感...  
花が.....

何処も  
花だらけだ...

鎖は無い...  
自由に歩ける...

自由.....？



カキ









奇跡の花だ  
生きていればあらゆる  
傷も病も癒す花…

この星にしか  
自生しない奇跡の花

本当に？

鳳仙は  
死んだんだな…

そう、俺が殺した  
俺が篡奪した

何故神威は此処を  
花で満たす？

今日も綺麗に  
咲いたよ



自由になつていつか帰つて  
攘夷を成すと決めていた

ああ…俺は…

神威は花を持ってくる  
貴重な花を惜し気も無く  
丁寧に、大事に……

あの傷は腹じゃない…  
胸だ……  
鳳仙は俺の心臓を  
貫いた……

死んだのか……

大事に飾る

いかに高杉

気付いちやった...

花を...

まあ、高杉相手に  
そう長く隠せるとは  
思わなかったけど.....

俺は  
死んだんだな...


うん、高杉は  
あの時死んだ

死んだんだよ...

ごめん...

ごめん、高杉...  
俺はあんたを  
護れなかった...  
花は奇跡的に高杉の  
身体の上は無理だった


.....



学者によるとね  
多分高杉は  
今も死んでいる


高杉が  
生きているのは…

動けるのは…




この花の在る  
場所だけなんだ

この花が無いと  
高杉は呼吸も出来ない




ああ、そうか…

ごめん……




こんな筈じゃ  
なかったよなア  
俺も、お前も……


ごめん  
高杉……



そしてそれでも  
高杉を生かして  
いるのは俺の傲慢だ



あの時、高杉は  
死ぬ筈だった……  
それでも俺はあんたを  
あのまま死なすことが  
出来なかった……




こいつは篡奪者となり  
王朝を奪った……  
そして鳳仙のように  
意のままに振舞えばいい


欲しければ捕え  
奪えばいい……

どれ程の苦痛が  
俺達の間には  
横たわるのだろう

けれどもこいつは  
それをしねえ……



それはこいつが真っ直ぐだからだ  
あの苦しみを知っているからだ



この地獄で、果ての無い  
責め苦の中でお前だけが  
真っ直ぐだった

この七年……  
傍に居たのは  
お前だった……

その真っ直ぐさに  
俺こそが救われていた  
お前の真っ直ぐさは俺の光だった



俺こそがお前に救われていたよ、神威

謝るのは俺の方だ…  
無様に死んじまって…

きつと狂って  
仕舞うほどに

ああああああ

もう果たせねえ…  
攘夷もなんもかも  
置き去りにして……

こいつの苦痛はどれ程のものか…  
奴を討ったところでこの様だ…

いつか帰ると…  
それだけが俺を  
生かしていた……

ああ、己は  
幽鬼となつてしまったか

この永遠の夜から  
抜け出せず

この花がなければ  
この身体は死に朽ちる

花があつても  
この身体は  
いつまで持つか

噫、でも  
お前を置いて  
逝くことが  
これほどに……

明日なのか  
明後日なのか  
一ヶ月なのか  
或いは一年なのか

辛い……

悪かったなあ  
神威



こいつの為に生きてやりたい  
既に生きていない己が  
生きてやりたいとも思う

遂にこの永遠の夜の星から  
逃れることは叶わなかったか  
この半獄で朽ちるか

俺が生きている限り  
神威は俺を救えなかったことを  
悔い続けるのだから

充分だ

生きながら死ぬ  
捕らわれた七年とは違う  
花のあるところでは  
生きられぬのなら  
幽鬼と変わらない

神威

そんな<sup>おそ</sup>悔ましいものに  
我が身は成って仕舞った

そこに  
かつて夢見た未来も無く  
互いに望んだ道も無く

もういいと  
云ってやれば終わる  
こいつの苦しみも  
俺のこの身体も

お前はよくやったと  
云えばそれで……

終わる





此処に  
あるだけ持って行こう

なのにお前は云うね  
いつものように



こんなに  
綺麗に咲いた

初めて遭った時から  
変わらぬ真つ直ぐさで  
変わらぬ強さで

ねえ、高杉



どこまで行けるか  
なんてわからない

高杉の星には  
辿りつけない  
かもしれない

此処に留まっていれば  
高杉は生き永らえる  
ことがきっとできる



死して尚生きて欲しいと  
願いながらも

此処に留まる絶望を  
わかってるからこそ  
精一杯の希望を籠めて  
どこまでも

でも俺は決めたよ  
俺は約束を果たす


俺があんたを  
見届ける  
俺が解き放つ



叶うのなら

最期まで俺と  
生きて欲しい





ここにあるだけ  
持って行こうよ

そして生けるところまで  
往こう、高杉

この暗闇を  
照らす光のように



君が生ける  
場所こそが  
—— 全て





思えば昔は  
きっとあの狭い籠の中で  
それでも互いに  
ささやかな自由を夢みてた

きっと彼は帰らなかったのだと、思う  
彼の生まれた侍の屋へ  
果たさなければならぬことの為に

だから彼は  
苦渋の中、生き続けた

ねえ、高杉  
いつか……

そして俺は幼いままに  
その輝きに惹かれるように  
手を伸ばした







生けるところまで往こうと  
云った言葉通り

全く…敵わねえな  
てめえはよ……

若き夜王は宇宙の果てまで  
この奇跡の花で埋めるのだと云った

真っ直ぐ、何処までも  
ただ真っ直ぐで

覚悟はしてる  
俺も、お前も

いつ果てても  
いっしょに……

それでも

諦めず前へ進む  
お前の為に

少しでも永らえたいと思う  
俺の身勝手を赦して欲しい

今日は調子が  
良さそうだ

ああ、誰かさんが  
花を咲かせ  
まくってるからな……



夜王の御座船だ…

大きいぞ…!!

逃げろ…!!



王が代替わり  
したってえ話だ

え？

なんでも若い將軍  
だか今は王で  
そう悪くねえんだと

じゃあ襲いに  
来たんじゃねえのか…



何してんだ…！  
夜王の軍勢が  
来るんだぞ！  
早く女子供を…！

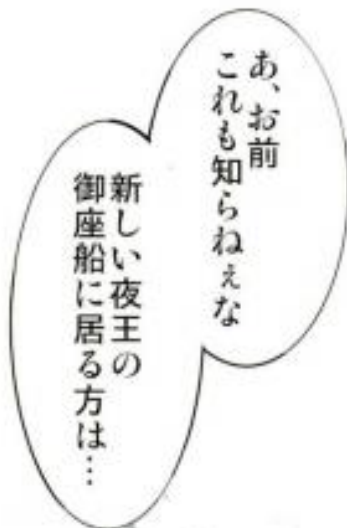
ああ、なんだ  
お前知らねえのか？

は？



何せ最初に布令を  
出したつきり  
俺達には干渉なした

商いも好きにして  
いいんだと…  
前よりいいくらいだ



あ、お前  
これも知らねえな

新しい夜王の  
御座船に居る方は…



「花」だよ、  
花育てろって



…そりやまた  
風変わりな王様だ  
布令って？

臨時ニユースで  
地球における和平条約が  
締結されました

以降地球は  
大宇宙連盟に加入し  
貿易などで対等な  
立場を取れることになり

独立  
入り

また地球の暫定幕府は  
銀河系を平和的に掌握した  
夜王とも新たに同盟を締結  
友好の証として光煌花の種子が  
地球に贈られました

繰り返します  
地球は独立を







俺の「花」なんだろう？  
俺の好きにする

またあげちゃったの？




不安か？

新たな夜王として  
王に成った男と  
花を失くしては  
生きられなくなった男

花が失くなれば彼は死ぬ  
だからこそ夜王として出した  
最初で最後の布令は  
花を可能な限り異なる環境で  
存続させることだ



既に航路は何光年か…  
遠くまで来た…  
いや…此処まで来れた



高杉は何て  
呼ばれてるか  
知ってる？

俺は夜王で  
そして彼は

見て！  
奇跡の花だよ！

神様に  
分けてもらっ

花を纏う  
花失くしては  
存在出来ない

神様だってさ

その姿は  
まるで花神のようだと

民衆は云った

そんな大層な  
モンじゃねえよ

痛みは在る  
痛みが俺と神威の  
間には在りすぎた

先生を失い、攘夷戦争で  
多くの同胞を失い  
友を死なせ、そして  
強者に奪われた人生だ

その中で出遭ったこの子供こそが  
己が最後に得たものなのだろう  
失うばかりの生の中、最後の最期に  
神威は俺まで失った  
喪失の痛みばかりが俺達の間にある



此処に居るのは  
夜王や神なんかじゃねえ

でも何故だろう  
その喪失の先に

お前は居たね  
どんな痛みにも怯まず  
真っ直ぐにお前だけが居た

只の神威と  
只の高杉晋助たる



うん

それこそが

そうだね

俺の生きるという答えなのだろう  
お前が俺の為に生きるように  
それこそが答えだった

あらゆるものを失い続けた  
俺が得た唯一のもの  
失い続けたからこそ悟った

船が出るよ

俺はこうなる運命さだめだった  
これこそが答えだった




花は煌々と  
路を照らす

往こう  
高杉

その花を手に行く  
何処まで生けるかわからないこの生を  
生けるところまで

共に生きる為に





生きる答えは  
此処にある

# 花盗人と 玉座の王宮

2014 SUMMER  
GINTAMA FANBOOK NO.008

Hofukukoushin icica and nassan presents. R-15 神威×高杉晋助

※このお話は神威×高杉のR-15中華ハラレルです。  
鳳仙×高杉等、一部残酷な描写など御座いますので  
ご注意ください。

